



白石市⇄聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラとの国際交流

NEWSLETTER

2026 年特別編集号

編集・発行：白石市国際交流協会事務局（白石市まちづくり推進課内）

2026 年度オーストラリア友好親善訪問団

8月4日（火）～8月13日（木）



お別れの日の朝、お世話になった聖ラファエル校の生徒のみなさんと

❖ 2026 年度 オーストラリア友好親善訪問団 ❖

- 期 間：8月4日（火）～ 8月13日（木）の10日間
- 内 容：ホームビジット、学校体験、校外学習、市内見学
- 訪問団：市内中学生8名、引率2名

★訪問団員の目標★

《ホストファミリー、クラスメイト、先生と積極的に会話をする》《自分のふるさとについて伝える》《たずねられたことにまずは答える》《わからないから話さない、聞かないではなく、わからないから聞いて理解する》《あきらめない》《積極的に話しかけて、その人の名前を呼ぶ》《恥を捨てて、いろいろなことに挑戦する》《オーストラリアの文化を知ることはもちろん、日本との文化や考え方の違いを比べてみる》《異国の文化に触れ、多面から物事を見る力を持つ》

交流先は、日本と深い繋がりがあるオーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州カウラにある聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラです。この交流は 2017 年にスタートし、今回で7度目の訪問となります。2019 年からは相互交流がスタートしました。

訪問団の生徒は、聖ラファエル校でオーストラリアの普段の学校生活を体験しました。また、同校の生徒宅を訪問し一緒に食事を摂ったり、遊んだり、休日にも一緒に時間を過ごしました。学校では、訪問団全員で白石や日本についてのクイズ発表を行いました。そのほか、カウラ、シドニー、キャンベラでは歴史的な場所を訪問し、戦争の悲惨さや平和の大切さを学びました。

◆シドニー到着

8月5日(水)



▲フェザーデール・シドニー・ワイルドライフ・パーク動物園



▲澄み切った青空と心地よい風邪の中で



▲オペラハウスを背景に

◆キャンベラへ～国会議事堂、在豪日本国大使館を訪問

8月6日(木)



▲上院（赤の部屋）



▲下院（緑の部屋）

★オーストラリア国会議事堂★

- 上院と下院による二院制をとる議会制民主主義の国
- 連邦議会の議員は、18歳以上の国民による選挙で選ばれる
- 投票は国民の義務とされ、正当な理由なく棄権すると罰金が課される
- 投票率が90%を割ることはない



▲日本大使館敷地内を散策



▲一等書記官と現地職員から大使館の役割や日本文化・情報の発信を行っているなどのお話を聴きました！



◆マウントエインズリー展望台と戦争記念館を訪問

8月7日(金)



▲展望台からはキャンベラの街並み、湖、国会議事堂などを一望できます！▲戦争記念館にて（日本語ガイド付）



▲戦没者の名前と彼らを追悼するポピー



～戦争記念館では、オーストラリアがこれまで参戦した主要な戦争の歴史について兵器や戦闘機、当時の資料とともに展示されています～
 オーストラリアにとって大切な戦争記念館であり、約80年前、日本とオーストラリアは戦争をしました。オーストラリアは、日本軍による攻撃を受けた経験があり、日本との戦争で亡くなったオーストラリア人や日本軍の捕虜になった人たちの経験なども大切にされています。

◆カウラへ

8月7日（金）



▲日本庭園文化センター



▲日本とオーストラリアの和解の象徴として、造園家の中嶋健氏（故人）の設計で建設されました

★カウラ市について★

- オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州にあり、シドニーから車で約5時間、首都キャンベラからは約2時間の距離に位置している
- 人口は約1万人
- 主な産業は遊牧業（主に羊）、ワイン、キャノーラ、小麦
- 日本庭園文化センターは、カウラの観光名所となっている

◆日本人戦没者墓地を訪問

8月7日（金）



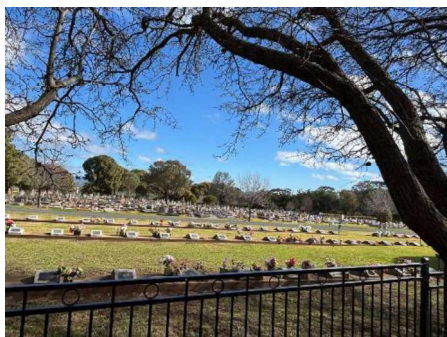
▲ツアーガイドのミディ中嶋さんから、当時から現在に至るまでの話を真剣に聞く生徒たち

★カウラ戦争捕虜収容所での日本兵集団脱走事件とその後について★



第二次世界大戦中のカウラには捕虜収容所が置かれており、当時約4000人が収容され、このうち約1100人は日本人だったと言われています。1944年8月5日の午前2時頃、「生きて虜囚の辱めを受けず」との戦陣訓を叩きこまれていた日本兵捕虜による脱走事件が発生しました。231人の日本兵捕虜と収容所の警備などを行っていた4人のオーストラリア人衛兵が亡くなりました。

集団脱走事件の犠牲者の墓地はしばらく放置されていましたが、これに心を痛めたカウラ退役軍人会のメンバーが、かつての敵対国である日本に対する反日感情が社会に残る中にも関わらず、墓地の維持と管理をするようになりました。その後、オーストラリア連邦政府の協力のもと、第二次世界大戦時にオーストラリア国内で亡くなった日本兵捕虜等を埋葬する日本人戦没者等墓地がカウラ市内の共同墓地の一角に整備され、適切に管理されるようになりました。



▲非常に美しく、丁寧に清掃・維持されています



▲ネームプレートには埋葬された方の氏名や死亡日、死亡年齢が刻まれています。中には戦没者の名前には偽名（別名）もあります



～引率者からの感想～



「今回の訪問順序（キャンベラ⇒カウラ）はとても良かったと思う。その理由として、『キャンベラで戦争について学ぶ⇒カウラで日本とオーストラリアの具体的な歴史に触れる⇒平和・友好について考える』という流れは、歴史学習・平和学習・国際理解を一体的に行うことができると実感したからです。」

「この順序は続けてほしい。第二次世界大戦についての学習が十分でない中学1年生にとっては、キャンベラでの事前学習がカウラでの現地学習を理解するための重要な学びの土台になるはずです。」



▲当時の日本兵は、「捕虜になることは最大の恥」と強く教え込まれていました。本名で自分が生きている（捕虜になった）ことが明らかになると日本にいる家族が「非国民の家族」として差別されたりする危険がありました。家族への不利益を防ぐため偽名を名乗り、カウラ事件などで亡くなった際も偽名のまま墓碑に刻まれている方もいます。



◆聖ラファエル校へ～ホストファミリーと対面～ホストファミリーと過ごす

8月8日（土）・9日（日）



▲「楽しくやっつけそう！」



▲「Nice to meet you！」



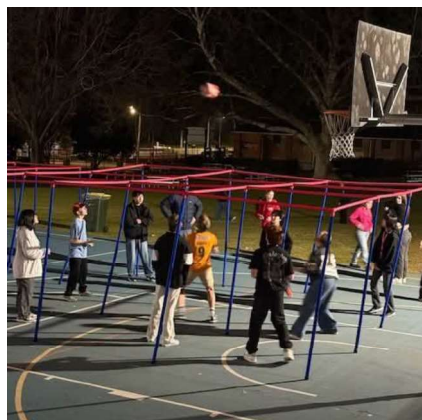
▲「和気あいあいなファミリー～(^^♪)」



▲「とってもやさしいファミリー！」



▲「お互いマリオカートが好き！」

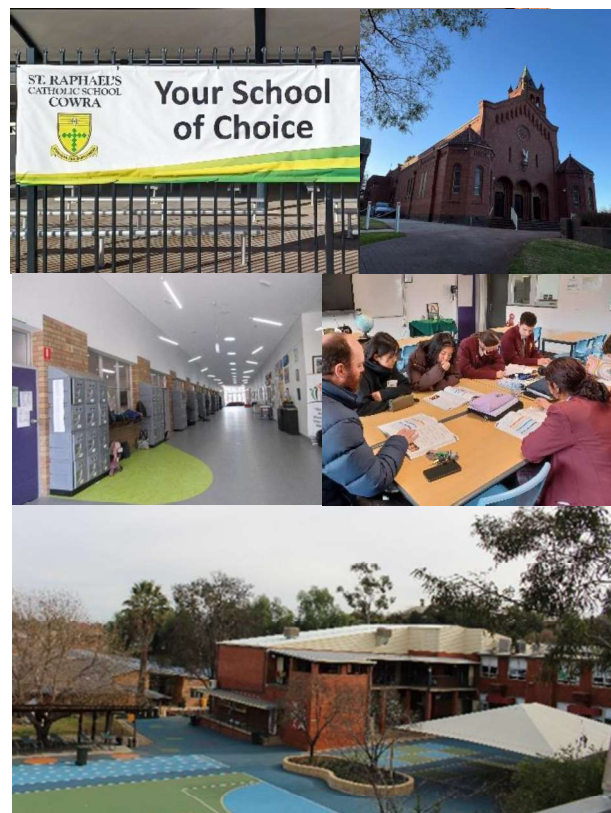


▲グリッドボールに挑戦中！

8月9日（土）の夕方は、全員がホストファミリーと一緒に学校へ再び集合し、伝統的なオーストラリア式バーベキューを楽しみました。日本で言うバーベキューとは異なり、事前に炒めたみじん切りの玉ねぎ、焼いたソーセージを8枚切り食パンに挟んで、バーベキューソースやケチャップなどをかけて食べるのがオーストラリアのバーベキューです！

食事後は、ホストシスター・ブラザーと白石の生徒全員が参加して、グリッドボールの試合をしました。

◆聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラとオーストラリアの学校生活



●聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラの学校生活●

- ✓ 私立のカトリックの完全一貫校。校風は「強さとやさしさ」
- ✓ 幼稚園児から高校3年生までが通っています。
- ✓ 校舎は平屋のレンガ造りで、いくつもの中庭スペースがあります。
- ✓ 昼食は好きな教室や廊下、中庭、屋根のあるテラスで自由に摂ります。
- ✓ 学校のすぐ隣に教会があります。
- ✓ 年間を通じて特別な行事の際には、全校生徒で祈りを捧げます。
- ✓ 広大なグラウンドはなく、いくつもの中庭スペースがあり、ネットボールやバスケットボールができるコートがあります。

●オーストラリアの教育制度・学校生活●

- ✓ 州政府（各州に教育省がある）が教育制度を管轄しています。
- ✓ 4学期制。「年度」は1月末に始まります。※州で異なります。
- ✓ 1日の授業が終わるとすぐに下校します。
- ✓ 日本のような放課後のクラブ活動はありません。
- ✓ 学年の呼び方は、6年生以降も7年生、8年生、9年生と、12年生まで続けた呼び方をします。
- ✓ 生徒による清掃活動はなく、清掃は業者が行います。
- ✓ 義務教育は10年生（高校1年生）までです。



聖ラファエル校の授業は1時間60分です。2時間目の後にはリセス（recess）という25分の休み時間があり、生徒は持ってきたおやつや果物を食べながら休憩します。

◆学校体験（校外学習・授業体験）

8月10日（月）・11日（火）



▲スクールバスで校外学習へ！



▲観光案内所を訪問



▲カウ脱走事件をホログラム映像で伝えています



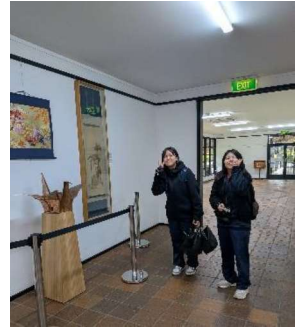
▲戦争捕虜収容所跡地で



▲戦争捕虜収容所跡地



▲庭師 8 人により景観を保っている日本庭園



▲日本庭園文化センター内



▲リセスの時間でフルーツやマフィンを食べました！ランチが午後 1 時 30 分頃からなので（遅い！）、ここでしっかり栄養補給！



▲外で友達とモグモグ休憩中



▲ホームルームはなく、教科ごとに廊下にある個人ロッカーから荷物を取り出し、次の教室へ移動



▲日本語クラスに参加。この日は広島の実験について学んでいました。「絶対に忘れてはいけないから毎年勉強します！」



▲一緒に鶴を折りました



▲小学 2 年生のクラスにも参加！



▲一緒に本を読んだり、ゲームをしたり、子どもたちには名前をカタカナで書いて教えてあげました（^^♪ みんな英語が上手（笑）で、ニコニコして話しかけてくれました😊

◆クイズ発表 & 交流会、ベン・クーリーズ・ファームへ

8月11日（火）



▲クイズの問題に合わせてOXのジェスチャーで回答



▲発表後は円形になり簡単なゲームをしました

～生徒の感想～



《想像していた以上に日本の文化や白石市のことを生徒や先生が知っていたことに驚いた》
 《ジブリのクイズは簡単に答えられてしまった》
 《早押しクイズにも積極的に参加してくれてよかった》
 《日本語の授業だからなのか、返事がすべて「はい」で統一されていてリスペクトを感じた》
 《クイズの内容によっては盛り上がりたり盛り上がりなかったりした》

《あたり一面に広がる農地がとても印象に残っている》
 《約 1,000 頭の羊をはじめとする多様な動物が飼育され、小麦などの農作物がたくさん栽培されている景色は、今まで見たことがなく非常に感動した》
 《みんなで荷台に乗ってとても楽しかった！》
 《みんな笑顔だった》

※この日は雨の影響で、動物とふれあうことはできませんでした



▲荷台に乗って、広大な草原や丘を駆け抜けました！ ▲丘の上からの景色は最高でした！



◆お別れ、そして帰国

8月12日（水）



▲お世話になったホストファミリーと涙のお別れでしたが最後は笑顔で



▲ブルーマウンテンズ国立公園にて



▲ツアーガイドのメディ中嶋さんとシドニー空港でお別れ訪問団を安全に、そして実のある素晴らしいお話もたくさんしてくださいました！

◆オーストラリア派遣事業を振り返って...



____ 学校体験で感じたことは？

《自由と自主性の両立です。生徒も先生もそれぞれ自由に過ごしていましたが、ルールはしっかり守りトラブルが多発しない環境が保たれていることに大変驚きました。授業ごとに異なる人と関わる機会が多いため学校全体がオープンで仲が良いのも魅力的でした》

____ 印象に残っていることは？

《戦争記念館の無名戦士を追悼する記念ホールです。戦争とは何か、なぜ起こしていけないのか、無くすことはできないのか、平和とは何かなど

これから考えていきたい》《ツアーガイドの方から「オーストラリアでは質問がないことは、あなたの話には興味がないよ、と捉えられる」と教わったこと》

____ 今感じていることは？

《オーストラリアの経験を得て、これから日本のことをもっと学んで、それを人に伝えて世界が平和になるようにしていきたい！》《本当に貴重な体験だった》《応募してよかった》

____ 来年の訪問団員に向けてアドバイスは？

《会話ができればより仲良くなれるから、とにかく英単語を覚えて！》